

60周年記念メッセージ起草委員会に参加して

埼玉県さいたま市 兵藤 健三



○ 今、思うこと

行政相談委員制度60周年記念事業の一つである「委員からのメッセージ起草委員会」のメンバー14名の一員として、この事業に関わる機会をいただき大変感謝いたしております。同じ価値観・方向性を共有する方々と協力して、5,000人の委員の皆様の思いを形にする試みができることは、大変気が引き締まる思いでした。起草委員会に参加することにより、行政相談委員に委嘱された当時を思い出し、心新たにすることができました。

しかしながら、顔を合わせての起草委員会の開催ではなかったため、メンバーとの情報交換が思うようにできなかったこと、総務省や全相協の方々とは身近にな

れるチャンスが失われたことなど、心残りな点がいくつかありました。

行政相談委員の委嘱を受け、制度の意義・重要性を再認識し、必要とされることの大切さを、地域社会へ少しでも貢献・恩返しして、住み良い・住んで良かったと思ってもらえるよう心掛けて、10年が過ぎました。その初心を忘れることなく、日々の相談業務に取り組んで参りました。

○ 3回にわたる起草委員会の開催

結果を得ることはもちろん重要なことではありますが、そこに至るプロセスが大切であり、大事だと考えております。新型コロナウイルスが昨年から蔓延し

ている状況から、起草委員会は、文書による意見のやり取りというこれまでにない方式で開催されましたので、戸惑いながらもその場に参加させていただいた喜びを痛感いたしました。

起草委員会では、地域におけるリーダーである各地相協会長等から事前に出された意見を参考に、タイトル、内容、考え方、盛り込むべき事項、文言等について、3回にわたって検討が進められました。

メッセージを作成するに当たり、各メンバーの思いや気持ち等を明らかにすることは意義があります。また、60周年のテーマは『つなぐ』としており、委員制度50周年記念宣言に込められた思いをつないでいく必要があります。

60周年記念メッセージは、これらを盛り込んで、メッセージとして多くの方々に思いを伝えていくことが大切であるという考えの下に作成したものです。

具体的には、第1回起草委員会では、タイトルや50周年宣言との関係、前文、事項の項目数、キーワード、結び、メッセージの活用方法等について、各メンバーから、一字一句を大切に広く意見が出されました。

第2回起草委員会では、前回委員会における各メンバーの意見を基に、『委員からのメッセージ(案)』として5つの素案が示され、1つの案に絞り込みを行いました。その案は、内容的に各メンバーの意見等を、十分汲み取っていただいています。具体的には、文字数も適当であり、かつ、簡潔で「聞きたい」、「読んでみたい」と思わせるものであり、また、形式、構成、語彙等が平易で分かり易いものと思われました。

第3回起草委員会では、前回委員会の意見を基に事務局が作成した修正案について、各メンバーから再度意見が出され、最終案が取りまとめられました。

その後、全相協理事会で最終案を説明

し、修正が加えられ、承認をいただきました。

多人数のメンバーの意見・考え方を一つにまとめ上げることの大変さ、事務局皆様のご苦勞をお察しいたしました。また、参加されておられるメンバーの皆様の見解・提案などから、沢山教えていただくことができました。

○ 結びに

まだまだ新型コロナウイルス感染症は、終息する気配がありませんが、コロナ明けには、必ず新しい空気が流れてくると信じております。現在、行政相談業務を行うには、ベストの環境ではありませんが、「やれること・できることは必ずあるはず」と考え、待つのではなく具体的な行動を起こす必要があると思っております。今は自己研鑽のときと思います、充電していきたくと考えております。

急がず歩くがごとく、日々、何気なく見たり聞いたりすることの中に、大切なことが隠されていることに気付くことを忘れないで進めて参りたいと考えています。

行政相談委員制度60周年記念メッセージは、総務省職員の方々、全相協役員・事務局の方々等、多くの方々に関わりあつてできあがったものです。また、一歩行政相談が身近に感じることができました。

